



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

本年度の方針

第五十六代会長 土屋 崇



飯能ロータリークラブ第56代会長として一言ご挨拶を申し上げます。

2019 - 20年度国際ロータリー会長のマーク・ダニエルマローニー会長（米国:アラバマ州、ディケーターRC）のテーマは、「ロータリーは世界をつなぐ ROTARY CONNECTS THE WORLD」とし「地域社会とのつながり」、「世界（グローバルコミュニティ）とのつながり」、「仲間とのつながり」、「支援を必要とする人々とのつながり」を掲げました。

また、国際協議会を通じて強調されたことは

変化：変化を受け入れる

変えてよいこと

⇒時代の変化への対応

変化を受け入れる：柔軟性を取り入れる

変えてはいけないこと

⇒ロータリーの優先活動

世界のロータリアンが「同じ価値観とビジョン」を持つ

ロータリーの目的・ビジョン声明・

ロータリーの使命 です。

2570 地区ガバナーの鈴木秀憲氏（吹上RC）は2012 - 13年度に続き2回目のガバナーです、地区スローガンを

つなげる：未来へつなぐ

組織の未来へ

個人の未来へ としました。

地区運営の運営方針として、

- ・コンパクトな地区運営：
地区組織の簡素化、専門用語を使わない
- ・クラブ中心の事業：
地区はクラブ事業のお手伝いをする、奉仕事業の原点を考える
- ・会員増強について：
職業分類を新しくし未充填を補充、新しいクラブの設立、シンポジウムの開催
- ・公共イメージの向上：
一般の方を対象にシンポジウムを行う、地域社会に歓迎される社会奉仕を、人道的奉仕をアピール

・職業奉仕：

「倫理観を持って職業を行うこと自体が奉仕」の日本のロータリーの原点の精神を高める自分と自分の職業を磨く事を推奨

・社会奉仕：

地域の他の奉仕団体(公益法人)との連携、自治体や他の団体への移譲

・柔軟性を取り入れたクラブ運営：

クラブ細則に明記、運営に壁を作らないを掲げました。

さて、当飯能ロータリークラブは昭和39年に創立され55周年を迎えました。歴代会長・幹事が中心となり築かれた歴史と伝統は脈々と引き継がれております。今年度の国際ロータリーのテーマ「ロータリーは世界をつなぐ」はロータリー活動の原点とも言えるでしょう。「つなぐ(繋ぐ)」は今の飯能ロータリークラブが次の60周年さらに100周年へと続きますように、またロータリー奉仕・委員会活動の継続性は時間軸の継続性でありロータリークラブの会員同志や家族とのつながりや地域社会・他の団体とのつながり(交流)は人と人とのつながりです。

私はロータリークラブの魅力は、一人ひとりのロータリアンの魅力と活動を通じて得られる信頼・達成感・充実感が大きな要素だと思います。そこで本年度は「つなぐ」をテーマとし具体的な活動方針として、

1. 55周年記念行事の開催…皆で祝おう
2. 飯能ロータリークラブの過去・現在・未来を考える…ガバナー輩出の下地作り
3. 公共イメージの向上…ロータリー財団の地区補助金の利用
4. 会員増強(入会3名以上)…身の周り人材の発掘
5. 退会防止…ロータリークラブライフの充実とし、

「人と人との繋がり」「心と心の結びつき」をスローガンとして掲げたいと思います。

次年度へ無事バトンタッチ(つなげる事)ができますように、会員皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

任期を終えて

第五十五代会長 島田 秀和



飯能ロータリークラブは昭和39年に創立され、本年55周年の節目の年を迎えました。元号も退位にともない平成から令和の時代がスタートしました。

2018～2019の会長としての任期を無事終了することが出来ましたことは、会員皆様の絶大なるご指導、ご協力のおかげです。すばらしい歴史と伝統あるクラブをいつまでも引き継ぐべく、55期の役割を最優先に考えて事業を展開させていただきました。本年度テーマのもと当初の目標、並びに5つの切り口からの成果・結果をご報告申し上げ、退任の挨拶に替えさせていただきます。

<テーマ> 飯能ロータリーの未来に向け、基礎づくりの年

1. 伝統ある飯能ロータリークラブを学ぶ

伝統・歴史・創始の考え・ロータリーライフ等、委員会会員卓話にて研修。会員の過去の所属委員会・役職の入会順にて一覧表を作成、全員に配布。過去6年の会員数・収支・繰越金の推移一覧表を配布。引継例会に利用。

2. 新たな飯能ロータリークラブを考える

前半の例会を利用し、クラブの方向性・事業を全会員で考える。地区出向・セミナーに積極的参加し、次年度は4名の方が地区出向する。ガバナー擁立を掲げ、選考委員会4回実施したが決定ならず持越となる。

3. 飯能ロータリアンを増やす

地区目標：会員の10%以上。増強6名目標掲げ何とか6名達成する。クラブバランスを考え40代～60代の方に入会していただいた。増強は急務だが、数合わせではなくクラブにふさわしい人を選んだ。

4. 飯能ロータリーの事業を見直す

5年続いたベトナムへのパソコン贈呈事業で8月に全員アンケート実施。話し合い、本年度にて終了を決定する。地元の要望される事業を模索する。関連5委員会とスタッフとで将来に向け、意見交換を2回開催する。

5. 飯能ロータリーを宣伝する

会員も一般の方からもわかりやすいロータリーを目指す。5委員会での意見として、現在籍会員の氏名・職業公開が増強にも繋がるとの事で文化新聞に会員募集の広告記事を2回行う。次年度はケーブルテレビも市内他奉仕団体との交流を持つ事でお互いが理解し合う。JC・青年部の役員に卓話講師依頼し、距離を縮め増強に結びつける努力をした。

以上、スタッフ・委員長に支えられ、事務局にお世話になり、たくさんの事業を展開することができました。今後は次年度 土屋年度の影の応援団でがんばりたいと考えています。1年間ありがとうございました。